

阿弥陀岳北西稜

2010.4.24 - 25

久池井豊、七生

記録：七生

豊の帰宅を待って、金曜の夜に自宅を出発した。数日前に天気が悪かったため、林道の積雪を覚悟していたが、まさかの雪がない状態で今までで一番楽に駐車場へ行けた。空にはたくさんの星が輝き、明日の晴天が期待できる。今シーズン最後のチャンスにかける。

4/24 今日取り付き付近に幕営し、アプローチの下見までなので遅めの出発とする。重いザックが肩に食い込み、腰が痛い…。考えてみればこれほどの荷物量は8月の唐幕以来だ。たまに出てくるアイスバーンをアイゼン無しで楽しみながら通過し、行者小屋に着きそうなあたりで、顕著な赤テープたちを発見！しかも、すぐそばにテントも張ってある！ここに違いない、と我々も付近に陣取る。

荷物をデポし、露岩付近まで下見に出発する。重い荷物から開放された喜びで足取りも軽い。北西稜のアプローチはわかりづらいと聞く。確かに樹林帯の中は見通しが効かない。だが、良く見ると思っていた以上に目印があり、あまり迷うことなく露岩を見つけることができた。ここまで来てしまえば、明日は迷うことはないだろう、と、雪もちらついたのでデポ地点まで戻る。が、テント設営後に、豊はアタックザックを忘れたことに気づく。さらに、「ザイル忘れた！」。こんなことって初めてだ。よっぽど行きたくないに違いない(笑)。とにかく明日は一本で行くことにする。

夜、爆睡する豊の隣で、私はお目目ぱっちり。あれ？ときどき外に出ると、今夜もきれいに輝くオリオン座が少しずつ、移動している。途中から眠れたが、少々不安な気持ちで朝を迎えることに。

4/25 3時半起床。ぱっちりの睡眠じゃなかった私、今回あまりモチベーションが高くない豊。食後、「七生が勝ったら行く・豊が勝ったら帰る」じゃんけんを冗談半分でする(笑)。結果は、普段、じゃんけんにめっぽう弱い私がまさかの五連勝！！これには神様もびっくりだ(阿弥陀岳だから仏様か！？)。二日続けての晴天なんて、滅多にあることではないし、また、行けるシーズンが来ても、今回のように天気や仕事との睨めっこになることだろう。やっぱ、行くしかない！

5:00 テン場発。カリカリの雪面をアイゼンで快適に進む。露岩に30分で着く。

小ピーク手前は「急な雪壁」とトポに記してあったので、楽しみにしていたら、え？これが壁？？？丘みたいなところを過ぎると、もう小ピークであった。

ここで大休止を取り、登攀準備をする。



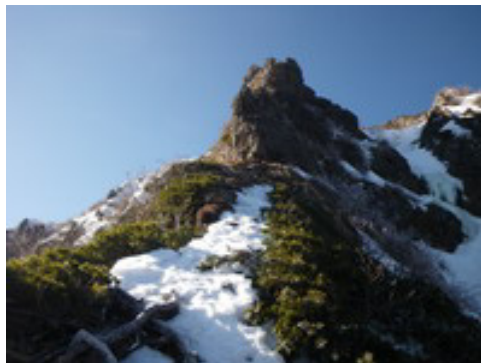
目の前に聳え立つ岩峰に、雪はほとんどついていない。

雪がないことで容易になるのか、それとも難易度が増すのかわからない。なんとなく、上部のトラバース地点が見える。行ける気がした。

ここから、念のためロープを出し、七生スタート、3ピッチで垂壁下のビレイポイントまで岩稜帯に行く。雪がないため、不安定な岩場もあり、緊張する場面もあった。

#### 1P：豊

7:30 スタート。岩を右に回りこみ、ビレイヤーからまったく見えなくなる。ルーファイに迷っているのか、時々ロープの流れが止まる。40mとトポにあったし、草付き帯では神経を使うから、ザイルの残りを声かけしなかった。ほとんどロープいっぱいビレイ解除のコールあり。支点も少ないうえに、凍った草付きはいやらしく、「海の方が絶対楽しい！」と心で叫びながら登る。残置ハーケンが私が気づいたのは全部で4箇所程度であった。ルートファインディングが難しい。ハーケンも岩や土の色と同化して、なかなか気づきにくかった。



#### 2P：七生

日が当たらず寒い。初め凹角を若干進むと、すぐにリッジにのった。去年登った小同心クラックを思い出した。すぐに終了点に着いてしまったので、続きのトラバースもつなげることに。ロープの流れが多少悪くなることも考えられたが、時間短縮を優先した。下に目を向けるとスパッと切れたトラバースは、ハンドホールドが思ったより豊富で、ガバだったため、足元がアイスバーンになっていたが、不安はなかった。豊は、ここが一番怖かったらしい。3箇所くらい残置ハーケンがあり、立ち木も中間支点として利用できた。ルート中で一番楽しめるピッチ。

#### 3P：豊

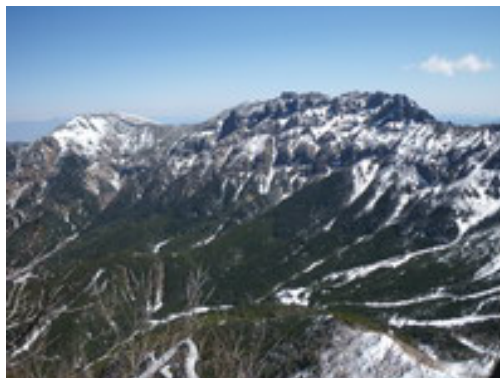
トポでの最終ピッチ。私がリードを希望していたが、豊が登りたいと駄々こねるので、譲ることに。直上後右にトラバースする。トラバース区間は以外と短く、そこから核心へ向かう姿がビレイポイントから丸見え。ビレイポイントは日があたり、ぽかぽか。すぐにビレイ解除のコールがあり、「登ったぞー」といつもの雄たけびが聞こえる。

最後のピッチだから、楽しんで登ろう。出だしはなかなか垂壁で体が重いぞ。トラバースは楽チン。さて、ここからいよいよ核心か！上を見上げると、え？これだけ？と思うほど短い。それに、中山尾根の核心と同じく、岩には刻まれたアイゼンの跡がばっちり。でも、私のアイゼンの爪は跡のサイズとあわず、ハンドホールドとしてちゃっかり使わせてもらう。セカンドだからフリーで越えたかったけれど、むなしくA0する。A0でもなかなか腕力が必要だったから、今回はリードを任せてよかったな、と半分納得した。

この後、ロープの必要はあまり感じなかったが、念のため、2P分ロープをのばして一般道に出た。9:45、めでたく北西稜登攀終了。がちり握手をかわす。快晴で、ほとんど風もなく、貸切であった。ここで、じゃんけんのおかげで登れたことを笑いあい、たっぷり休憩した。岩陰は風もなく、暖かい。春の岩稜はいいね。

阿弥陀岳の山頂で阿弥陀様にお参りし、他の登山者に写真を撮ってもらった。二人で登るとお互いの写真しか撮れないのでラッキーだった。下りは少し雪が腐っていたが、問題を感じなかったので中沢のコルを下る。テン場に11時着。喉が渴いたのでお茶を飲み、撤収。

帰りはいつものように、後半の歩きに飽きてきた頃、駐車場に着く。それでもベースまでが短く、八ヶ岳は素晴らしい遊び場だと思った。



#### 追記

昨年の秋に体調を崩し、再び山に入れることはこの上ない喜びでした。相談にのってくださったみなさん、本当にありがとうございます。前と同じように体が動かせて、自信も戻ってきました。久々ながら、二人のロープワークの呼吸はぴったりで、やっぱり、山はいいな、と思いました。

先輩が登った憧れのルートを自分たちの力で登ることができて、感激でした。